

平成19年度第2回帯広市地域医療推進部会 会議録

日時：平成19年11月19日（月）19時～19時45分

場所：帯広市役所本庁舎 10階 第3会議室

出席委員

堀部会長、有田委員、鹿野委員、高橋委員、村田専門委員、長久専門委員、原専門委員

会議次第

- 1 開会
- 2 会議
 - (1) 前回及び前々回会議録の確認
 - (2) 平成18年度保健事業の報告について
 - (3) 釧路血液センター帯広出張所すずらん献血ルームについて
 - (4) その他
- 3 閉会

開会（事務局）

お晩でございます。

定刻となりましたので、はじめさせていただきます。

本日は、お忙しいところ、また、お疲れのところご出席いただき、誠にありがとうございます。

ただ今から、平成19年度第2回地域医療推進部会を開会させていただきます。

本日の委員の出席は、地域医療推進部会、委員9名中7名のご出席をいただいております。なお、前田委員と渡邊委員が欠席するという事で連絡を受けております。

出席人数が、委員の過半数を超えていますことから、本日の部会は成立しております。

それでは、これより議事の進行につきましては、堀部会長にお願いいたします。

部会長

今晚は。

では、最初に、前回及び前々回の会議録の確認について議題といたしたいと思います。

この会議録は、この場で確認いただきまして、その後、公開される予定になっております。

会議録については、もうお読みだと思えますけれども、ご質問やご意見があればお伺いいたします。

委員

別になし

部会長

別になければ、会議録は承認されたものいたします。

次に、平成18年度保健事業の報告について、議題といたします。

事務局、説明をお願いいたします。

事務局

それでは、平成18年度保健事業について、ご報告いたします。

なお、お手元の資料1、2、3を一括してご説明させていただきます。

保健事業につきましては、市民の生涯を通じた健康づくりを推進するなど、様々な事業を展開しております。

その事業を実現するために、保健福祉センターを拠点として、母子保健事業では乳幼児健診や歯科健診、感染症予防のための予防接種などを実施しております。

また、成人保健事業では、生活習慣病の予防と早期発見のため、健康診査や各種がん検診、健康教育、健康相談及び健康づくり評価事業などを実施しているほか、救急医療体制などの整備を行っております。

それでは、資料1をご覧ください。

まず、保健福祉センターの利用状況であります。センターでは4つの事業に分けて市民の方に利用いただいております。

1つに健康づくり事業、2つに子育て支援事業、3つに高齢者・障害者支援事業、4つに相談窓口事業を行っております。また、その他、一般貸室として多目的ホール、会議室などの貸出しも行っております。

平成18年度のセンター利用者数を合計で申し上げますと、65,356の方が利用しております。

利用件数、人数は記載のとおりであります。

次に、感染症の予防であります。予防接種法に基づき、伝染の恐れがある疾病の発生及びまん延を予防するために、予防接種等を実施しております。

接種者数等については、記載のとおりであります。

次に、生活習慣病の予防として、健康診査、がん検診の実施状況であります。コミセン等地域に検診バスが出向く集団検診と市内医療機関で実施している施設検診の実施状況であります。

検診区分、受診者数等は記載のとおりであります。

次に、2ページをご覧ください。

健康教育の実施状況であります。生活習慣病を予防するため正しい知識の普及をすることにより、健康の保持と増進が図られるものであり、保健師などが地域に出向いて実施しております。

実施回数、人数は記載のとおりであります。

次に、健康相談の実施状況であります。体や心の健康に関する個別の相談に応じ、心身の健康などに関して、地域に出向いて実施しております。

回数等は記載のとおりであります。

次に、健康づくり評価事業とリラクゼーション事業であります。この2つの事業は、昨年オープンしました保健福祉センターで、初めて取り組んだ事業であります。

健康づくり評価事業は、健康プラン1日コースと健康プラン3か月実践コースとに分かれており、健康プラン1日コースでは、健康づくりのきっかけが欲しい方、また、現状の健康の確認をしたい方が保健師により栄養診断、体力測定、ストレス度チェックなどの調査・測定を行ない、その結果に基づき食生活や運動メニューなどのアドバイスを行っております。

また、健康プラン3か月実践コースでは、基本健康診査の結果、肥満があり、さらに、高脂血症、高血圧、糖尿病の検査項目で「要指導」となった方が対象となります。

この実践コースは、メタボリックシンドロームいわゆる内臓脂肪症候群の予防と改善を目指してお

り、保健師、管理栄養士、健康運動士が改善指導を行なっております。

実施回数、人数は記載のとおりであります。

また、リラクゼーション事業では、メディカルチェアやリラクゼーションカプセルを導入し、市民の方の単なる休息や休憩ではなく、精神的疲労の回復やストレスの解消などに活用しております。

実施回数、人数は記載のとおりであります。

次に、寝たきり・認知症の予防であります。訪問指導の実施状況では、生活習慣病の予防や閉じこもり、寝たきり、認知症予防を家庭訪問により行なっております。

また、身体障害者体力向上トレーニング事業の実施状況では、障害がある方の健康増進や機能回復、代謝機能の獲得を目的とした障害者体力向上トレーニング事業を行なっております。

実施回数、人数は記載のとおりであります。

また、介護予防個別評価事業といきいき温泉事業の実施状況であります。平成18年度の介護保険法の一部改正に伴い地域支援事業の創設により、高齢者が介護などを必要とする状態となることを予防するため、特定高齢者施策として「介護予防評価事業」と一般高齢者施策として「いきいき温泉事業」などを行なっております。

実施回数、人数は記載のとおりであります。

次に、エキノコックス症検査の状況であります。エキノコックス症予防対策の一環として、小学校3年生以上の人を対象に血清検査を実施しております。

受診者数は記載のとおりであります。

次に、救急医療体制に関する実施状況であります。本市では、医療機関等と連携して、比較的軽度な救急患者に対する初期・一次救急医療から、重症救急患者に対する二次救急医療、重篤救急患者に対する三次救急医療まで体系的に整備が進められてきております。

資料中、一次救急の状況であります。夜間急病センターは、毎日午後9時から翌日午前8時まで実施しております。

また、帯広市医師会で実施しております在宅当番は、毎日午後7時から午後9時までを内科小児科1医院で、また、休日当番については、日曜・休日や年末年始の午前9時から午後5時まで外科1医院、内科小児科2医院、産婦人科1医院の体制で実施しております。

また、休日歯科診療につきましては、日曜・休日等の午前9時から午後4時まで、十勝歯科保健センターで歯科救急患者に対応しております。

患者数は記載のとおりであります。

次に、3ページをご覧ください。

二次救急の状況であります。厚生病院、協会病院、第一病院の3病院の輪番制で実施しており、平日は午後5時から翌日午前9時まで、土曜日は午後1時から翌日9時まで、日曜・休日や年末年始は24時間体制で実施しております。

待機日数、患者数は記載のとおりであります。

次に、急病テレホンセンターであります。平成16年5月に開設し、在宅当番医等の一次救急医療機関をはじめ、独自診療時間帯設定の医療機関の情報を市民に提供しております。

なお、電話での問い合わせに対しては、午後4時から午後10時までは職員が対応し、午後10時から翌日午後4時までは音声録音テープで対応しております。

案内状況は記載のとおりであります。

次に、その他の事業では、自動体外式除細動器、AEDの設置であります。市民の救急救命率の向上を図るため、昨年度、本庁をはじめ各公共施設38か所に設置しております。

なお、A E Dの研修につきましては、A E Dの操作講習を含む「救命研修」を消防の協力のもとで実施しております。

次に、資料2をご覧ください。

平成18年度の決算状況であります。保健衛生総務費、夜間急病診療費、予防費、保健福祉センター費の4事業であります。

主な事業概要につきましては、ただいまご説明させていただきましたので省略させていただきます。

予算額、決算額の合計でご説明いたしますと、予算額765,079,000円、決算額736,695,578円であります。

増減額では、減額28,383,422円となっております。

この主な減額は、保健福祉センター管理運営費の減額であります。

減額の主なものとして、光熱水費に12,790,832円の不用額がでました。

不用額の理由は、昨年、保健福祉センターがオープンしたわけですが、予算額はオープンに向けての予算だったため、他の公共施設等を参考に予算計上しましたが、利用時間帯や利用者の利用行動パターンなどに違いがでたものと考えております。

次に資料3であります。先ほどご説明いたしました救急医療体制に関する実施状況の追加資料であります。

これは、年度別及び1日当りの患者数を記載しております。

説明は、以上であります。

部会長

ただいまの説明に、何かご質問やご意見はございませんでしょうか。

委員

保健福祉センターに移って、利用の状況とか、何か問題点などについて何かありましたか。

事務局

おかげさまで、東の方に移ったわけですが、かつての総合福祉センターと比較して、面積が広くなり、駐車場について、現在では160台分のスペースが確保されました。

また、なによりも木造の施設ということから、木のぬくもりがあるため、子育ての関係では、大いに利用されてきており、特に、乳幼児プレールームが新しく整備されて、お母さんたちが子どもたちを遊ばせる、あるいは、お母さん同士の情報交換がされるなどのメリットは十分にあったものと考えております。

ただ、バス交通を確保したわけですが、利用状況は芳しくないため、本年10月から停留所を移動するなど、すこしは利用されやすくなったものと考えていますが、公共交通機関の整備という面に関しては課題が残っているものと考えています。

利用者数に関して、昨年度の65,356人に比較して、徐々に上向きに増加している状況にあると感じております。

部会長

他にございませんでしょうか。

委員

1 つめに、資料中の A E D の設置に関して、これまで利用されたかどうか。

2 つめに、夜間急病センターの利用状況が減少していると聞いていますが、以前、ハード面あるいはソフト面での整備などを実施し、利用促進を図ったほうが二次救急病院の負担が少なくなるとの意見があったと思いますが、その方向性について伺いたい。

3 つめに、生活習慣病予防に関してマスコミ等で、健診を受けている住民が 5 0 % に満たないとの状況にあると報道されていますが、資料は昨年度実績であり前年度との増減比較はどのようになっているのか伺いたい。

事務局

A E D の利用については、昨年 8 月に設置からこれまでに、グリーンプラザで 1 回の利用があったと聞いています。

健診の受診率でお答えしますが、過去 5 年間の受診率の推移として、平成 1 8 年度 3 2 . 7 %、平成 1 7 年度 3 3 . 4 %、平成 1 6 年度 3 3 . 4 %、平成 1 5 年度 3 2 . 3 %、平成 1 4 年度 2 9 . 7 % となっています。

夜間急病センターにつきまして、ご質問にありましたような問題点を現在かかえております。

平成 6 年度の利用者数をピークにして、徐々に下がってきている傾向にあります。

これに対しまして、夜間急病センターは、夜間急病対策協会に委託して、管理運営を行っており、ここでもいろいろアイデアをこらしてはいるのですが、現状の背景として、特に小児科におきましては、患者あるいは保護者の大病院志向があるのではないかと考えております。また、帯広市だけではないでしょうが、かかりつけ医に診療してもらう傾向があるのではないかと考えております。

また、昨年と本年の 9 月の 1 か月間、夜間急病センターにおきまして、患者さんに対してアンケート調査を実施し、その中で「医師あるいは看護師の対応について好感をもてた」、「適切な処置がされた」という感謝のアンケート結果がありますことから、相応のサービス提供が実施されていると思っておりますが、にもかかわらず患者数の増加につながっていない状況にあることは事実であります。

それに対しまして、現在、救急医療がどうあるべきかということに関しまして、二次救急病院、医師会のご協力をいただき、検討会議を設置し、議論・検討をしていただいております。

部会長

救急に関しては、私も、夜間急病センターに関する会議、あるいは、高度救急医療に関する会議にも出席しており、現状についての話しは聞いており、確かに人数は増えていないのですが、いい手応えは、だんだんと市民に伝わってきているということですから、検討会議などでハード・ソフト両面に関してしっかり話し合っていくことになっています。

また、生活習慣病のことにしても、これから特定健診というものがはいつてくるので、それとの兼ね合いとか、人数だけが増えればよいものか、今後の市の健診がどのようになっていくのかなどを見ていくこととなると思います。

それでは、保健事業に関しては、以上でよろしいでしょうか。

他になければ、次に、釧路血液センター帯広出張所すずらん献血ルームについてを議題といたします。

事務局、説明をお願いします。

事務局

釧路赤十字血液センター帯広出張所にございます帯広すずらん献血ルームの事業継続問題についてご説明いたします。

この問題につきましては、昨年11月29日に開催されました本審議会において、休止理由とともに、事業継続を求めて市議会や医師会と連携して要望活動を行なったこと、また、本年2月28日に開催された本審議会においては、血液センターと協議を重ねたのちに示された提案を受け入れ、毎週日曜日に、需要が多い400ml献血を主体とした全血献血のみが、献血ルームで行なわれるようになったことなどをご説明したところであります。

血液センターから示されました提案の内容につきましては、帯広市の協力として、検診医師の確保に努めるとともに、献血者の確保と献血事業の普及啓発に積極的に取り組むこと。そして、「本年4月から6か月が経過した後に、医師確保及び献血状況等について検証し、帯広すずらん献血ルームのその後の対応についてあらためて協議する」というものであります。

こうして、本年度の献血ルームでの事業がスタートしたわけですが、帯広市医師会をはじめ関係団体や企業等のご支援、ご協力をいただきながら、検診医師の確保、そして目標として掲げました献血者等の確保に向けて取り組んでまいりました。

その後、ほぼ6か月が経過した9月28日付けの文書をもちまして、北海道ブロック赤十字血液センターから、これまでの実績を検証し、日本赤十字社血液事業本部等と協議した結果、献血ルームでの採血を来年3月末まで延長する旨の通知がございました。

しかしながら、来年度以降については、血液事業が依然として厳しい状況下であり、北海道ブロック赤十字血液センターの各部門の集約について引き続き検討中であることから、血液の需要動向を見極めながら再度協議したいというものでございます。

本市といたしましては、この通知文書を受理するにあたり、これまでの実績を踏まえ、引き続き来年度以降も事業継続するよう求めたところでございますが、国等が定める血液の需要動向などを見極めながら再度協議をしたいという血液センターの意向が強いことから、止む無く受け入れることとしたものであります。

このように流動的な課題もございますけれども、市は、今後とも、献血ルームでの事業が継続できるように献血者の拡大や献血指導の普及啓発に努めますとともに、安全な血液製剤等の安定供給の確保や献血事業の円滑な推進を図るため、引き続き、関係機関・団体等のご理解とご協力をいただきながら対応してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

説明は、以上でございます。

部会長

事務局からの説明について、何かご質問やご意見はございませんか。

一応、1日30人という目標はクリアしているのですか。

それでも、血液センターからは説明にあったように言ってきているのですか。

事務局

目標人数はクリアしています。

説明のとおりです。

部会長

医師会としても、献血医師の確保などに向けて努力してきており、現在はまかなわれている状態ですが、必要な場合は、是非継続してもらいたいと思っております。

よろしいでしょうか。

会議次第の3番目まで終わりましたが、その他として、皆様から何かございますか。

なければ、事務局の方から何かありますか。

事務局

北海道地域ケア体制整備構想・十勝圏域版（素案）に係る報告ということで、お手元にお配りしております参考資料についてであります。北海道としては、二次医療圏ごとに構想づくりを行なうこととしたために、十勝圏域においても地域ケア整備構想の十勝圏域版を策定することとなりました。

その策定に当り、療養病床の現状や地域特性などを踏まえた対応策が必要なことから、十勝保健福祉事務所から市町村に対して意見を求められたわけでございます。

そこで、急遽、10月9日に、地域医療推進部会と高齢者支援部会の合同部会を開催させていただきまして、各委員の皆様方からご意見をいただいたわけでございます。

そのご意見につきましては、すでに事務局でまとめさせていただき、各委員の皆様にお送りするとともに、十勝保健福祉事務所に提出しておりますが、そのご意見が今回お配りしております参考資料の素案に記載されております。

ページにつきましては、3ページの地域における高齢者の介護サービス、見守り等の望ましい将来像の中と、12ページの意見交換会の主な意見に記載されております。

この素案は、すでに、十勝保健福祉事務所から道庁に提出されておきまして、その後、道庁におきまして点検、調整等が行なわれることと聞いております。

報告は、以上でございます。

部会長

前回の高齢者支援部会との合同部会には、私は出席してはいないのですが、前回の会議録等を見ますと、意見を求められたといっても、ほとんどまとまっていない意見が多く、素案に対する文句がほとんどではなかったのではないかと思います。

委員

前回の会議でだされていましたが、医療区分と介護度に関する基準づくりは大切なことと思いますが、どのようになるのでしょうか。

部会長

その点に関して、市として考えていることなどはありますか。

事務局

医療区分とADL区分に関して、市町村ごとの基準などを要望していますが、圏域として構想を策定しようとしていること、また、医療病床にはいろいろな地域からの患者がいることなどから、市町村別に行なうことはできないと、十勝保健福祉事務所から回答されてきています。

ただし、ADL区分は、介護保険介護ということで、要介護度によって市町村でもどの程度の入院

患者がいるかなどについては、介護報酬の支払状況をもとに分析できるので、次期の介護保険事業計画において、だしていけるのでは考えています。

委員

素案における人口のシミュレーションについて、帯広市の今後の状況としてはどのように考えていますか。

事務局

次期の第6期総合計画におきましても、人口推計をどのように考えていくかにつきましては、大変悩ましいところであると考えられます。

現在のところは、厚生労働省などによる推計の傾向などを参考にするものと考えられますが、帯広市としての考えというと、今はまだ具体的に決められないのではないかと考えられます。

委員

厚生労働省の推計は、ほとんどはずれており、伊達市などは独自に人口推計を行なうなど、他市の動向などでみならうべきは、みならうことも必要ではないか。

事務局

政策的に増加させたいという意向は当然であると考えられますが、帯広市の場合、自衛隊の師団が旅団となったことにより、人口がおよそ3,000人減少しているが、その影響に対してどのように人口を増加させていくか、あるいは、住宅地の課題として、近隣の音更町、芽室町などで大規模な土地開発が行なわれているということもあり、なかなか難しい状況にあるものと考えられます。

部会長

他にございませんか。

事務局もありませんか。

事務局

次回の地域医療推進部会の日程であります。来年2月頃の予定と考えておりますが、堀部会長と調整させていただき、皆様にご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

これで、報告等は以上でございます。

部会長

これで予定されていた議事は、すべて終了いたしました。他に何もないので、本日は、これで閉会といたしたいと思います。

お疲れ様でした。